



長野県No.1のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆当面する重点作業について

1. もも・ネクタリンの適期収穫を行う。
2. 秋季剪定の適正実施。(切り過ぎ注意)優良品種への更新及び苗木作りの芽接ぎ作業を実施。
3. せん孔細菌病・コスカシバ・カイガラムシ類の薬剤散布の徹底と、枝病斑の除去を行い、来年の被害軽減に努める。

【もも・ネクタリン共通薬剤防除】

◆**カイガラムシ類対策の特別薬剤散布**について

近年、増加しているカイガラムシ類の越冬量を減らすため実施する。

1. 散布時期:9月初旬

①川中島白桃・黄金桃等晩生種収穫終了直後～遅くとも第1回ボルドー散布前まで効果を出すため、できるだけ早めに実施する。

2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。《実際散布日記入 月 日》

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
コルト顆粒水和剤	50g	カイガラムシ類	前日

※収穫中のもも・ネクタリンに飛散しないよう十分注意する。

3. 散 布 量:10a当り⇒500ℓ 以上

4. 留意事項

- ①枝・幹部にムラの無いよう、薬液を掛ける事が大切です。できるだけ手散布で丁寧に実施する。
- ②ボルドー液との混用散布はできない。散布タイミングもあわない。

◆**第11・12回薬剤散布並びに特別薬剤散布**について

せん孔細菌病撲滅のため、天候等条件の良い日を選び、全園散布を徹底する。

本年も3回の実施を徹底したい。また、特に発生が多かった園は、**4回目を実施する。**

1. 散布時期

- ①1回目⇒ 9月11日(水)～ 9月15日(日) 《実際散布日記入 月 日》
- ②2回目⇒ 9月25日(水)～ 9月29日(日) 《実際散布日記入 月 日》
- ③3回目⇒ 10月 9日(水)～ 10月13日(日) 《実際散布日記入 月 日》
- ④4回目⇒ 10月23日(水)～ 10月27日(日) 《実際散布日記入 月 日》

2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

1回目

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アピオンE	66mℓ	—	—
ICボルドー412	3kg	せん孔細菌病	—
Ⓜダイアジノン水和剤34	100g	カイガラムシ類	前日

2・3・4回目

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アピオンE	66mℓ	—	—
ICボルドー412	3kg	せん孔細菌病	—

3. 散 布 量:10a当り⇒500ℓ 以上

4. 散布上の留意事項

- ①散布予定日頃に台風等が接近し、強風降雨がありそうな場合は、早めに散布する。
葉が落ちた痕や擦れた傷口から感染する前に予防する。
- ②散布間隔が14日以上空かないよう注意する。
降雨・風雨が多い場合は、散布間隔を10日程度とし実施する。
- ③樹脂を取り除き、樹全体(特に主幹・主枝等の太枝)を洗うように手散布で丁寧に散布する。SSを使用する場合は、SSを止めて地際部などを薬液がしたたり落ちるくらい補正散布する。
- ④実施前に徒長枝等を整理し、薬液が枝までよく掛るようにしておく事が重要。
- ⑤天候のよい日を選び、散布むらのないよう丁寧に散布する。
- ⑥㊸ダイアジノン水和剤34は、ボルドー液との混用ができるが、直前混用とする。
- ⑦コスカシバの食入防止のため、フェニックスフロアブル 4,000 倍(水 100ℓ 当り 25 ml)を加用散布してもよい。
- ⑧ももは、icボルドー412 に代えて登録がある 4-12 式ボルドー液(水 100ℓ当り生石灰 1,200g+㊸硫酸銅 400g)又は、icボルドー66D50 倍(水 98ℓ当り 2 kg)を使用してもよい。
- ⑨ネクタリンは登録がないので、4-12 式ボルドー液及びicボルドー66Dは使用できない。
6-6 式ボルドー液は、もも・ネクタリン共に登録が無いため使用できない。
- ⑩3・4回目に限り、icボルドー412 に代えてムッシュボルドーDF500 倍(水 100ℓ 当り 200g)を使用してもよい。(薬害があるため、1・2回目には、使用しない)
- ⑪アビオンEに代えて、K. Kステッカー3,000 倍(水 100ℓ 当り 33 ml)を使用してもよい。なおこの場合、ボルドー液を混用した後にK. Kステッカーを調合する。

5. 収穫中の品種、極晩生種への対応について

- ①ファンタジア・秀峰・白根白桃等の、収穫中・収穫直前・除袋後の品種に掛からないよう実施し、特に混植園や隣接園は注意する。
- ②収穫終了後には、早急に必ず散布を実施する。
- ③除袋前のもも極晩生種で、除袋後や袋が破けているものは、汚れるため散布できない。

◆果実腐敗病(灰星病等)被害果実の処分について

園地(樹上・地表面)に被害果実を放置すると、翌年への越冬源になり、菌密度を高め、翌年の発生を助長する。このため、被害果実は放置せず、土中深く埋めておく事が重要です。必ず実施し、翌年の被害軽減に努める。また併せて落果した桃の処理も速やかに行う。匂いの苦情が出ています。

◆せん孔細菌病の病斑(伝染源)除去の実施について

本年伸びた新梢に発生をする夏型枝病斑の発生がある。はじめ紫赤色の病斑だが、ひろがるにつれて紫黒色になってへこみ、枝に沿って縦長の病斑を形成する。夏型枝病斑から、飛散した病原菌は、**当年枝の皮目や落葉痕などで越冬して当年の伝染源になる**ため、これも剪除する。



特に、本年果実や、葉に感染が見られた付近を良く見て作業を行う。ボルドー液散布前に実施する。散布後は見つけにくい。

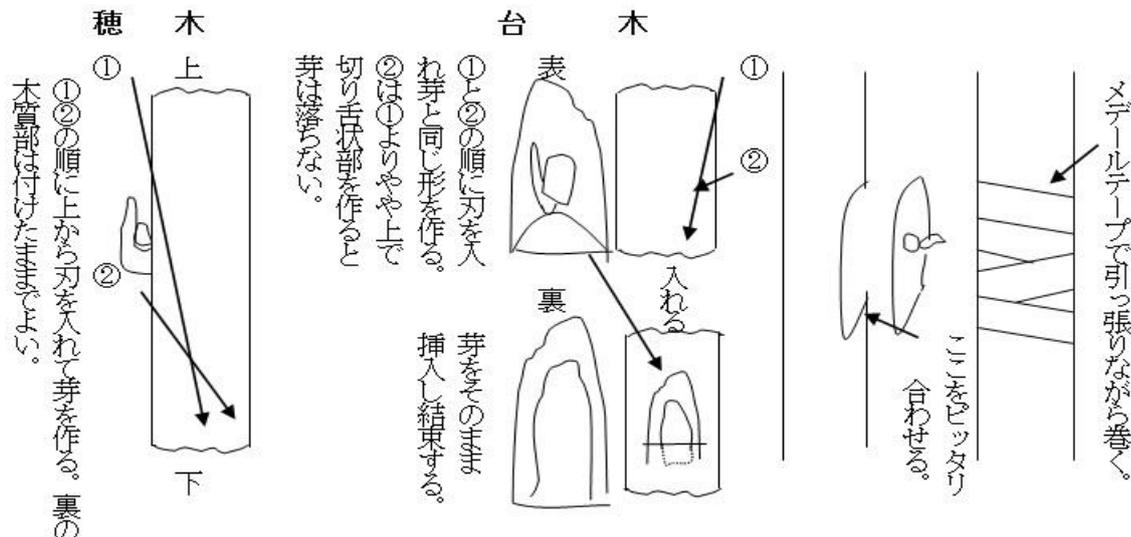
◆そ(削)ぎ芽接について

系統の良いものが各自の園又は地域にあると思われるので、収益性の低い品種・系統は早急に更新を図る。なお、樹齢の若い場合は次の要領で芽接による更新を行う。

1. 芽接の時期:9月上中旬(そぎ芽接を基本に行う。)
2. 注意点

- ①接穂は今年40cmぐらい伸びた新梢で、日光が十分当たり充実した新梢を選ぶ。
- ②メデールフィルム(接木パラフィルム)を使用した方が、コスカシバ予防と翌春切らずにおけるので便利。ビニールテープはくびれる場合があるので翌春カッターで切る。

《そ(削)ぎ芽接の手順》



◆礼肥の施用について

施用時期	肥料名	施肥量	実際施用日記入
9月上中旬	有機専科	10a当り2袋	月 日

※樹勢に応じて増減させる。

※ネクタリンは2割ほど多めに施用する。

◆かん水について

1. 乾燥し過ぎている場合は、収穫間際でも、軽い散水を行う。
2. 収穫が終了した品種へも実施する。降雨が無ければ、礼肥を施用しても効果がでない。10～15日しっかりとした降雨が無ければ、10a当り20mm程度のかん水を行う。

◆もも・ネクタリン苗木定植本数の目安について

下記を参考にし、積極的な、改植・新植を実施し生産力の維持拡大をお願い致します。

1. 定植位置の決定(栽植様式・距離)※栽植距離(10a当り栽植本数の目安)
※園地の形、通路、外周、樹形により異なるため注意。基本樹形を目安にしています。また、計画密植(間伐樹を含まない)ではない場合です。

栽培様式	距離	本数
開心自然形	9×8m	～14本
斜立主幹形	5～6×7～10m	～28本
低樹高疎植栽培	10～12×10～12m	～10本

◆秋季剪定・礼肥施用・せん孔細菌病対策講習会開催について

下記日程により開催しますので都合のよい会場へ参加してください。

なお、講習会前及び川中島白桃収穫終了後より、秋季剪定を開始してよい。

ただし、樹勢の弱っている樹は、更に弱くなりやすいので切りすぎに注意する。

ボルドー液散布前に薬液がかかりやすくしておく。

開催日	曜	時間	開催場所	担当
9月 6日	金	午前11:00	飯島 いえ様園(中津・北原農機具センター北) ※果樹研究会川中島支会と共催	松橋
9月 9日	月	午前 9:00	五明 秀樹様園 (松代西寺尾)	伊藤
		午前 9:00	今里公園集合 (今里)	松橋
		午前11:00	林 今朝広様園 (御厨)	松橋
		午後 1:30	宮澤 雄彦様園 (中真島)	根津
		午後 3:00	丸山芳樹様園(梵天)	根津
9月10日	火	午前 9:30	東横田公民館集合	徳武・寺澤
		午前11:00	塩崎小学校南 石川のぶい様園	徳武・寺澤
		午前11:00	若穂営農資材センター	松沢
9月11日	水	午前 9:30	宮本芳樹様園(小森)	外谷
		午前11:00	島田 栄一様園 (上組)	外谷
9月13日	金	午前 9:30	北村 政一様園 (中沢)	外谷
		午前11:00	杵淵火の見 (篠ノ井西寺尾)	外谷
		午後 2:00	倉田 健治様園 (旧西寺尾西支店)	外谷